

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 生野区

学 校 名 小路小学校

学校長名 湊 健次

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・小路小学校では、第6学年 47名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

・大阪市の平均正答率に比べ、国語科においては－3ポイント(昨年比－16ポイント)、算数科においては－8ポイント(昨年比－10ポイント)の結果となった。昨年と比べて国語、算数科ともに上昇は、成果である。特に国語科については、大阪府平均に迫ってきた。
 ・児童質問紙の結果から、「自分にはよいところがあると思うか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」「学校に行くのは楽しいか」に対して肯定的な回答をしている児童の割合は、大阪市と比べて高くなっている。家庭での学習のありかたについて課題が見られた。家庭と学校が連携・啓発しながら計画を立てて児童が自ら進めるような家庭学習の工夫が必要である。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

平均無回答率においては、大阪府と比較して大幅に低くなった。これまで本校の無回答率は大阪市と比較して国語科は2倍以上差があった。今年粘り強く最後まであきらめずに取り組むことが難しい児童が増えたことは大きな成果だ。国語科を見ると、大阪府の平均正答率に迫るほどになった。特にB書くことについては大阪市より3ポイント高かったのは成果である。A話すこと・聞くことについてと我が国の言語文化に関する項目については、府平均を下回ったが他の項目は、大阪府に迫るほどになった。学力向上支援チーム事業の授業支援やブロック予算でのデジタル新聞などの継続した活用等も成果の要因である。

〔算数〕平均無回答率においては、算数科も大阪市に迫るほどになった。これまで本校の無回答率は大阪市と比較して算数科では3倍以上差があった。今年粘り強く最後まであきらめずに取り組むことが難しい児童が増えたことは大きな成果だ。算数科においても全領域において大阪市の平均よりも下回るが、C変化と関係の領域の正答率が特に低く－10ポイント下回った。昨年と比べて算数科において若干の上昇は、基礎基本の定着を身につけるための放課後学習やモジュール学習の成果である。

質問調査より

・児童質問紙の結果から、「自分にはよいところがあると思うか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」「学校に行くのは楽しいか」に対して肯定的な回答をしている児童の割合は、大阪市と比べて高くなっている。これまでの取組により、児童の自己肯定感と人権意識感覚が高まっていることが考えられる。また、「家で計画を立てて勉強をしていますか」「学校の授業以外で家で普段一日あたりどのくらい勉強をしていますか」「読書が好きですか」「新聞を読んでいますか」について課題が多い。「学校の授業以外で家で普段一日あたりどのくらい勉強をしていますか」について30分以下が5割近くあった。ICTを使った授業につながる家庭学習や計画を立てて児童が自ら進めるような家庭学習の工夫が必要である。

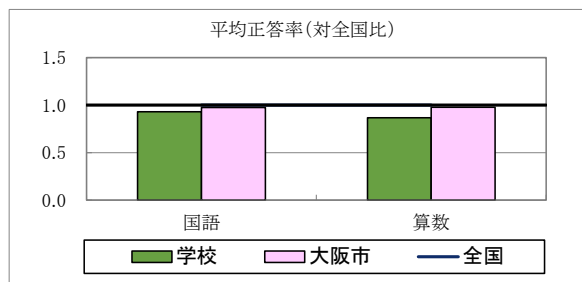
今後の取組(アクションプラン)

①大学から指導者を招聘した授業研修会を年間に位置付けて計画しポジティブ行動支援を研究の軸として主体的で対話的で深い学びを実現する授業改善を進める②ICTを使った授業の予習や導入につながる家庭学習の工夫③デジタル新聞など一人一台端末を使った家庭学習での定着④放課後学習などを通して算数科・国語科の基礎基本定着の取り組みを進める⑤言葉の力や読解力をつけるための取組・朝学やモジュールタイムに音読や視写、言葉のプリントなど基礎的な学習を取り入れる。(ブロック予算の活用)⑥日本語模擬検定(区役所事業)の受検⑦基礎計算力をつける取組・朝学やモジュールタイムに100ます計算や基礎計算プリントを活用し、計算力とその流暢性を向上させる・スキルアップテスト(本校独自の作成プリント)の取組強化・基礎計算に躓きのある児童への放課後学習

【 全体の概要 】

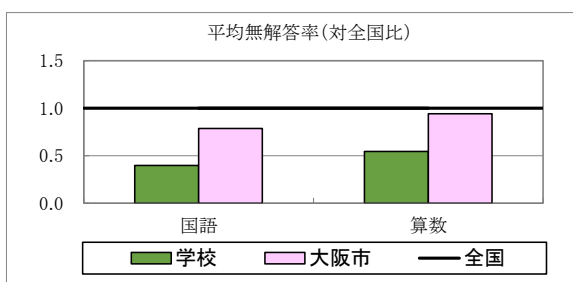
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	63	55
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	1.7	1.9
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



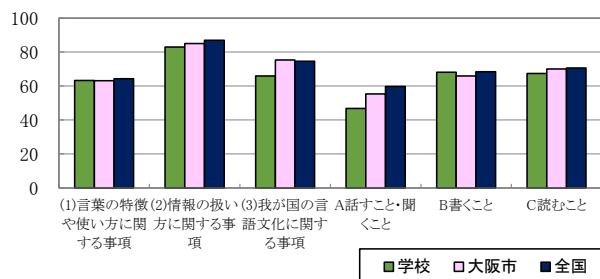
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	63.3	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	83.0	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	66.0	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	46.8	55.3	59.8
B 書くこと	2	68.1	65.9	68.4
C 読むこと	3	67.4	70.1	70.7

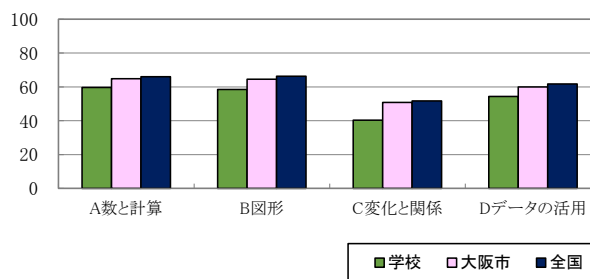
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	59.6	64.8	66.0
B 図形	4	58.5	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	40.4	50.8	51.7
D データの活用	4	54.3	60.0	61.8

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

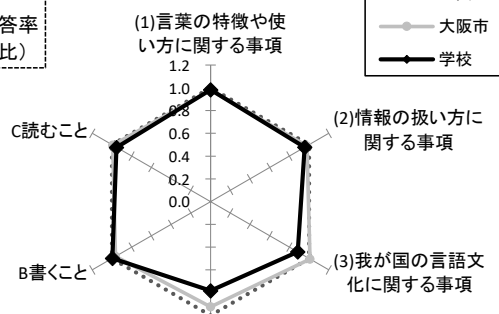


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



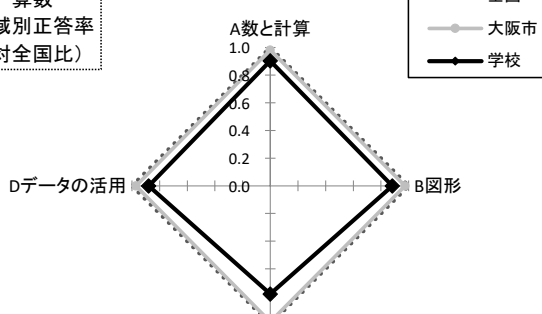
国語

内容別正答率
(対全国比)



算数

領域別正答率
(対全国比)



I
A話すこと・聞くこと

II
C変化と関係

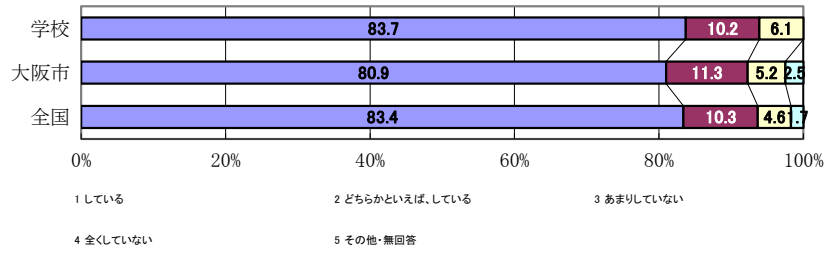
児童質問より

質問番号

質問事項

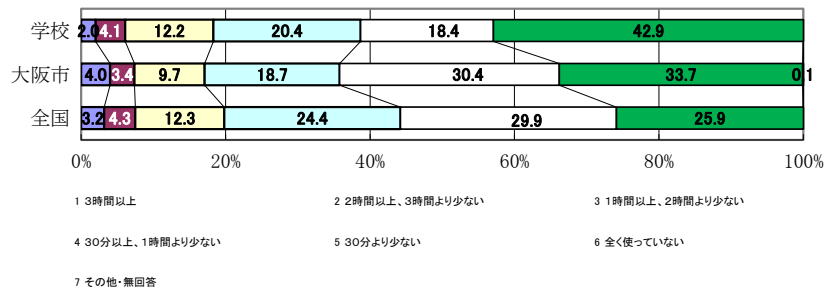
1

朝食を毎日食べていますか



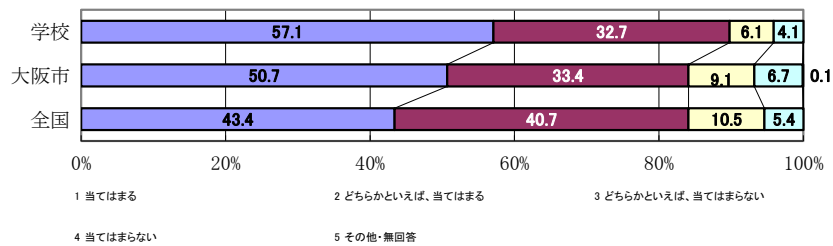
4

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）



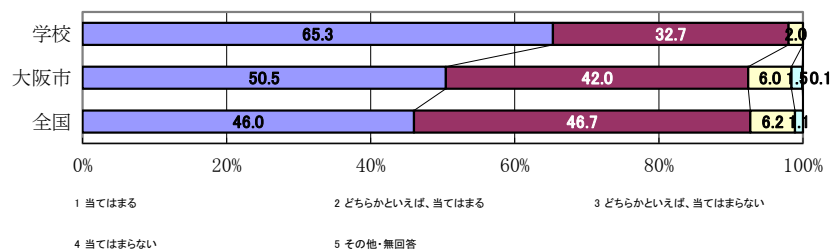
9

自分には、よいところがあると思いますか



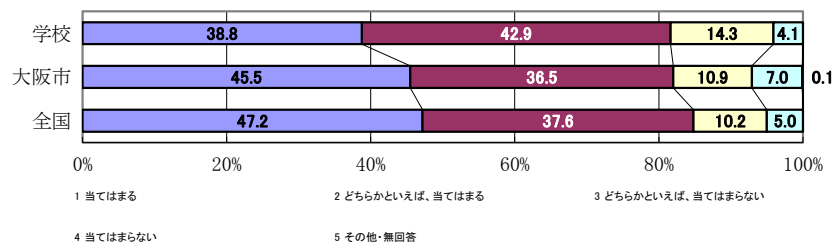
12

人が困っているときは、進んで助けていますか



16

学校に行くのは楽しいと思いますか



学校質問より

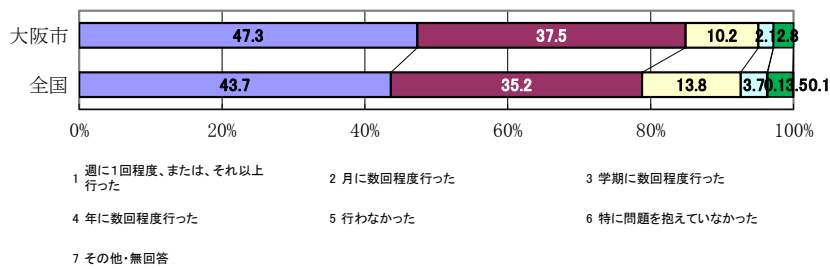
質問番号

質問事項

9

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

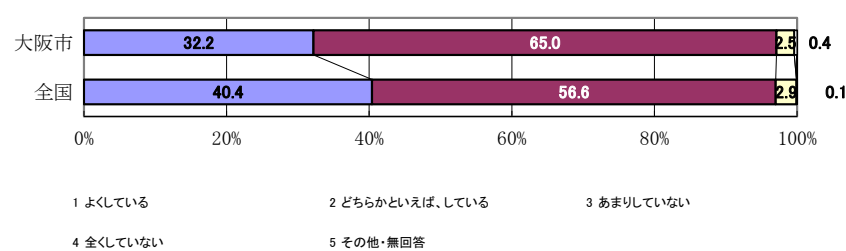
学校 「年に数回程度行った」を選択



13

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

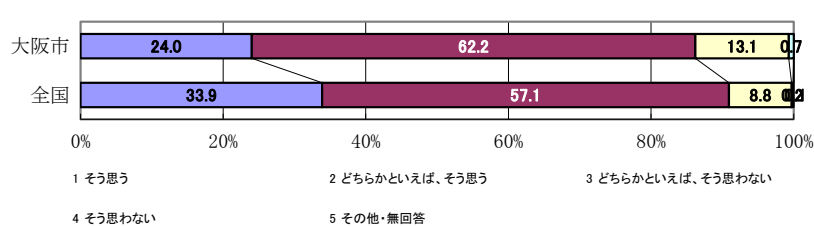
学校 「どちらかといえば、している」を選択



22

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

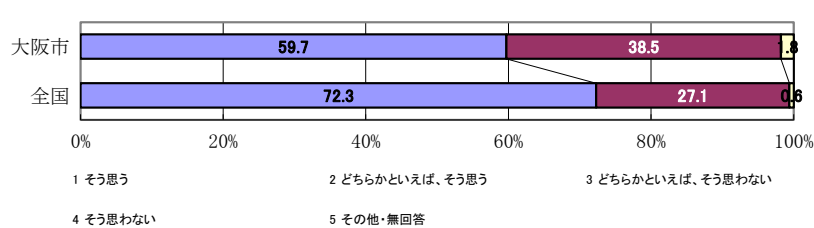
学校 「そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか

学校 「そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「そう思う」を選択

